

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	〒026-0302 岩手県釜石市片岸町第2地割13-28		
自己評価作成日	令和4年8月30日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

委員会を構成し、全員で運営にかかわれるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は宮古市ほか県内沿岸地区を中心にグループホームなどの地域密着型のサービスを展開している。事業所は、小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅が一体的に運営されている。その利点を活かしながら、充実した訪問診療体制と呼応して、看取りにも積極的に取り組んでおり、これまで多くの看取りケアの経験がある。看取りに際しても、その時々で利用者・家族の意向が変化するものと捉え、その都度柔軟に対応している。事業所理念は職員からのアンケートを下に「笑顔で楽しく」と定めている。職員の笑い声・笑顔が絶えず、利用者も明るく楽しい気持ちで過ごすことができている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と共に過ごす時を楽しみ感じられなければ利用者も、また同じ気持ちであると思うので明るく楽しい生活の場を提供するよう施設の理念として努力をしていきたい。	職員・家族のアンケートから、理念を「笑顔で楽しく」とし、よく見える「玄関」に掲示している。職員は日々のケアの場面で、笑顔で利用者とともに楽しい毎日を送れる介護を実践している。職員の笑顔は利用者にも確りと伝わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、地域の会合への出席は見合わせている。	コロナ禍のため、地域との繋がりを実感できるお祭りなどの行事が中止になっているが、地域の様々な情報は、民生委員を務めている事業所用地の所有者から教わっている。コロナ禍以前には、地域包括支援センターの主催で、学校、警察関係者の出席を得て、認知症を支える勉強会が開催され、事業所として参加していた。	コロナ禍の収束後を見据え、事業所が地域住民の方々を受け入れる形のものを含め、地域との交流再開に向けたプランの検討を始めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅支援事業所と連携し事業所の特性を説明し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、地域の会合への出席は見合わせている。実施を中止している。	これまでの運営推進会議は、外部評価受審に先立って協議することを主としていた。コロナ禍のため、委員からの意見を募り書面で集約することが困難なため、開催を見合わせてきた。来年度からの開催に向け準備の段階である。	運営推進会議の原点に立ち返り、事業所の運営状況等を報告、協議し、委員の意見をサービス向上に活かすほか、地域との繋がりを確かなものにする助言等をいただく場として運営されることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター、地域福祉課などとサービス利用等に関する連絡、相談をしている。	市の高齢介護福祉課との連絡は、コロナ禍によりメールでやりとりすることが多くなっているが、届出等があれば、市役所に出向き意見交換等も行っている。生活保護受給者が入居していることもあり、地域福祉課(生活保護担当課)とのかわりも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会にて定期的に会議を開き検証するなどして取り組んでいる。	3人の委員と管理者による委員会を3ヵ月毎に開催し、スピーチロックをテーマにその言い換え方法を協議し改善に取り組んでいる。身体拘束しない場合の利用者の安全面との関係も踏まえながら、身体拘束を行うリスクを理解し、介護業務に従事するよう職員を指導している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で予防の為、啓発活動をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から実務(成年後見制度利用者)を通じ必要に応じて職員に制度の内容を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点や疑問があればその都度、説明し理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の要望、意見を求めながら運営に努めている。	担当制にすることで、家族が少しでも要望等を話しやすく改善したものの、事業所に対する感謝の言葉は聞かれるが、要望等は殆どないのが実情である。事業所での利用者の様子は、随時発行する広報に掲載し、家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者及びリーダークラスのメンバー構成で運営会議を行い意見や要望の検討を行う機会を設け施設運営に反映させている。	日常的に職員が意見・提言を話しやすい職場の雰囲気がある。また、2、3ヵ月毎に開く職員会議でも意見を募っている。シーツ交換を夜勤者が朝一番に行っていたが、業務が輻輳する時間帯でもあり交換時間を変更するなど、職員からの提案を具体化し業務の改善に繋げている。センター長は、個別面談の実施を考えているとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境の改善に努め就労時間の柔軟な対応している。		

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上は必須条件と捉え新人研修から資格の取得など積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員が他業種と関わる機会が少なく今後の課題でもある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談でサービスの理解ができない場合も多く回数を重ねて理解と納得を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の不安感の軽減に努めながら問題点を共有し支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談時において適切なサービス提供かどうかを判断し相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など、利用者さまのできることは協力してもらっている。レクリエーション活動も職員も混ざり活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員を配置し家族と連携を図っている。		

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過のため面会制限や外出制限があり思うようにできていない。	入居前から独居で生活していたり、近隣との関わりが少ない利用者が殆どで、今でも馴染みの場所は病院という方が多い。障害者就業・生活支援センターに通っている60歳代の利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士を食席配置し孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の在宅サービスや施設入所などに変更した際にはその後の経過を確認したり連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を配置し利用者1人1人の意向の把握に努めている。	利用者の1/3程の方は自分から思いを伝えることができないものの、職員を担当制にしたことにより、自分から話しができなくても、相互の関係が密になり、これまで以上に積極的に意向や思いを把握できるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で本人様、ご家族様より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期間6か月、長期1年毎に計画の見直しを行っている。居室担当職員とケアマネによる3か月毎のモニタリングと、カンファレンスを経て介護計画案を作成し、家族の意向を聞き取り、ケアマネが介護計画を作成している。	日々のケース記録をもとに、担当職員とケアマネで3か月毎にモニタリングを行っている。状態等に大きな変化がない場合には、長期目標を1年としている。利用者、家族には原案を説明して意向や要望を伺い、かかりつけ医の意見もケアプランに盛り込んでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ニーズに対し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過のため活用・協議できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の対応範囲で可能な限り複数の医療機関への受診に対して家族の協力も得ながら支援を行っている。	入居に当たり、市内の在宅クリニックの医師による訪問診療に変更した方もいる。精神科医が主治医の利用者は月1回、家族の支援で通院その機会に自宅に立ち寄るなどしている。2人の利用者は職員が付き添って受診するなど、利用者・家族の状況に応じた通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師と協働し、個々の利用者の病気と治療の為、医療機関と常に連携して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院、退院に際して相互にサマリー作成し情報交換をに対応にあっている。(医療、介護共通の様式を使用)		

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中で多くの家族が利用の継続について不安を抱いており、医療機関と連携し看取り対応を実施していることを初期の段階から説明し理解を求め不安の軽減に努めている。	入居時に看取り対応が出来る旨を伝えており、事業所に併設するサービス付き高齢者住宅に住まいを移して看取る場合もある。また、職員の多くは看取りケアに携わった経験を持っており、家族には終末期の対応については、柔軟に変更することも可能な旨を予め説明した上で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は日々の実践の中で積み重ねているが、新人職員の教育訓練はまだ実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の地域の方の協力を得て避難訓練を実施中。 現在、BCP(事業継続計画)の作成中)	地域の民生委員の協力を得て、年2回火災対応の避難訓練を実施している。1回は昼の時間帯に消防署の立ち合いのもと行い、もう1回は夜間に夜勤体制の職員で実施しており、これらの実践状況を踏まえてBCP(事業継続計画)を作成しようとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということをしっかり理解し、利用者様を尊重する様務めている。職員間でも注意するよう意識している。	呼称については利用者の人格を尊重しながら「〇〇さん」を基本としているが、加えて利用者それぞれの特性に応じつつ、人生の先輩として職員間で意識合った対応を行うよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声がけし意思の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分に合わせて訴えがあればその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方は自分で衣類を用意してもらっている。できない方は、家族などと話しその人らしい衣類を用意してもらっている。		

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの総菜など個人の嗜好食品の購入支援をしている。食事前のテーブル拭き、エプロンたたみなどできることは手伝ってもらっている。	調理を担当している職員が、本社から送られる冷食メニューから1週間分の献立を立て、主菜は2品のうち1品を選択して購入している。利用者が季節感を実感できるメニューを心掛け、利用者の希望も取り入れ、状態に応じてきざみ食も提供している。人気メニューは、カレーとラーメン、刺身などである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて変化があればその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけ誘導や介助にて、口腔ケアを行い、清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、定時声がけ誘導し、失禁前にトイレにて排泄できるよう対応している。	排泄チェック表に沿って声掛けを行い、日中におむつを使用している人はいない。尿取りパットを使用しながら布パンツで自立している利用者は3人を数える。完全に自立しているのは60代の1人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携し下剤のコントロールをし水分摂取やレクリエーション活動を通じて運動を促し、自力排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて訴えがあれば日にちを変えするなどその都度対応している。	週2回午前中に入浴している。身体状況に応じ職員2対利用者1の人もいるが、基本は1対1としている。浴室・脱衣所は広く、また浴槽は木製で香りがよく、ゆったりと入浴を楽しめる。現時点では異性介助を可とする人だけだが、状況が変われば変更することは可能としている。入浴は、職員とのコミュニケーションの一時になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間以外は基本的に自由に行動してもらっている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての利用者様の把握はできていない。担当利用者様を中心に把握に努めていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当職員を決め、生活支援をに対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過でもあり、希望通りの対応はできていないこともある。	障害者就業・生活支援センターに通っている60代の方への外出支援は必要ないが、他の利用者は外出支援が必要である。コロナ禍でドライブの回数が減ってしまったが、新しい車椅子対応の車を購入したことから、何日かかけて全利用者が桜のお花見会の開催の他、釜石大観音や紅葉狩りなどに出掛ける機会を増やしていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には自己管理してもらっている。大きなお金は事務所預かりとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットを用いてテレビ電話など対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション活動で作成したものを飾り、季節感のあるよう努めている。温度は大型エアコンにて調整している。	グループホーム、小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅の利用者が共用の大きなホールがある。大きな窓と天窓から十分な光が射しており、ホール全体が明るく居心地が良く、エアコンにより室温調整されている。ホールの壁には、レクリエーション活動時に職員と利用者の共同で作られた手作りの花や花火などの作品が飾ってある。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が使い慣れたものを自由に持ち込めるように対応している。	居室にはエアコン・ベッド・クローゼットが備え付けてある。ドアにはロールカーテン付きの大きな窓があり、居室は明るい。壁に好きな俳優やスポーツ選手の写真が飾られるなど、利用者本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙をする等、対応している。		